

2003年(平成15年)4月28日発行

米山梅吉記念館 館報

THE YONEYAMA UMEKICHI MEMORIAL HALL REPORT

2003
創刊号

春

vol.1



特集

ビチャイ・ラタクルRI会長 公式訪問



財団法人 米山梅吉記念館

「米山梅吉記念館報」発刊と ピチャイ・ラタクルRI会長公式訪問成功を祝って

米山梅吉記念館の健全な運営と発展を図ることは我が第2620地区の重点施策の一つです。幸い平成10年の新館建設以来、内藤理事長以下執行部、米山梅吉記念館委員会中村委員長以下地区委嘱の運営委員の方々によって地区内外、更に海外にまでその活動を広げておりますこと、誠に同慶の至りに存じます。

ことに平成14年11月27日の2002～2003年度のピチャイ・ラタクルRI会長の地区及び館公式訪問の歓迎行事の成功は正に画期的、歴史的な盛事と申すべく、その感激の思いは今も目に焼きついております。この行事の期間に私はガバナ―を仰せつかっておりましたことも誠に光栄であり、私の生涯のハイライトの一時とさせて頂きましたことにも有り難いことと申す。心から皆様が一致して成し遂げた成果を讃えながらお礼を申し上げます。

調剤笑みを湛えたRI会長の館訪問、植樹（金木犀一樹名 慈愛）及び年度テーマを彫りこんだ記念碑除幕、長泉の子供たちを感動と愛に包みこんだ交流、叶えられた講演会。ロータリーは初心にかえらう、奉仕の根源は自らの職業の繁栄にある、その心で会員を増やそう、やめていく会員を友情でおしとどめよう、今一ふんばりしてポリオ撲滅に頑張ろう、など。あの講演は将来にわたって参加したロータリアンの心に永く残ることと申します。すべてを忘れて一つ心になった親睦の輪、歓迎晩餐会のなごやかな一時、ロータリー会員なればこそその充実感、などなど…。万感今も胸に溢れます。

米山梅吉記念館では長い懸案であった情報広報誌「米山梅吉記念館報」を新刊してくれるそうです。そして新刊特集としてあのピチャイ・ラタクルRI会長の館訪問の特集として全国に発信して下さること。誠に時機を得た企画、待ち望んでいた思いの実現を心から喜び、その発刊をお慶び申し上げます。

全国、及び国際規模に発展した米山梅吉記念館。その運営基金は全国のロータリアンの善意によりてまかなわれております。知って頂く、理解をして頂くために、情報誌の存在は絶対欠くことのできない必須の要件です。この朝刊号を出発点として今後館報が継続して発行され、米山精神及びロータリー精神を全国に発信して頂くことを願っております。



国際ロータリー第2620地区
2002～2003年度
ガバナ― 中野 哲男

創刊のことは

（財）米山梅吉記念館は1969年（昭44）創立、1998年（平10）新館建設、以来地区及び諸先輩、なかんずく館近隣諸クラブの御協力により全国的な組織に拡大、多くの御来館クラブを迎えて今に至っております。又、国際的な認知もいただき2002年11月にはピチャイRI会長の公式訪問を受け、ロータリー勲章表示も認められました。又、昨年は台湾「扶輪の友」委員会御一行の視察交流も頂き、近隣アジア地区からの御来館も増加しております。

館運営基金は館資金及び地区資金、神奈川2地区、米山記念奨学会、賛助会員、全国のロータリアンの御寄付によって斯われ、正に物心共の御協力によって維持されております。そのような中で心にかけながら最も欠けていたことは情報、広報の不足でありました。御協力いただいた全国のロータリアンの皆様に館の現状、御意見の承り、館金のお礼等、真の先になすべきことを諸事繁忙、予算不足等の理由はあるにせよ意図したことはお詫びすべきことであります。

館には以前「藍藻」という機関誌がありましたが、その後中断しております。今日はその復刊の意も体しながらも心機一転、全く新しい見地から館の広報誌としての役目を果たすべく「米山梅吉記念館報」を創刊することになりました。

この広報誌は

1. 館行事（例祭ほか）等の報告
2. 展示品の紹介及び解説
3. 館資金、会計の報告（寄付者、入金）
4. 米山梅吉研究
5. 御寄稿
6. 文芸欄（随筆、短歌、俳句、詩ほか）
7. 館からの御案内
8. その他

等を主目的にして編集して参りたいと思います。

われわれは既にロータリーの友、米山記念奨学会便りなど多くの情報誌をもっておりますが、それらの諸誌とも連絡をとりながら館情報誌として役目を果たして参りたいと存じます。何卒御意欲なく御意見、御寄稿を賜りますようお願い申し上げます。



財団法人米山梅吉記念館
理事長 内藤 成雄

奉仕の人 米山梅吉

米山梅吉翁は慶応4年(1868)大和郡取瀨土 和田三造の三男として、東京芝田村町に生まれた。5歳の時 父死に、母の実家 三島に移り住んだ。幼少より英才の誉れ高く、望まれて長原町旧家米山家の重子となった。旧沼津を経て、上京、20歳で渡米、苦学力行、オハイオ州ウェスレアン大学に学び26歳で帰国した。

帰国後、三井銀行入行、若くして重役、三井物産銀行初代社長、三井物産会理事長等。

一方社会奉仕活動は大正9年(1920)日本に初めて

田原ロータリーの思想を導入、東京ロータリークラ

ブを創立し初代会長、のち国際ロータリースペシ

ャルコミッション、ガバナーを歴任、日本ロ

ータリーの父と称がれている。又青山学院に

姉岡小学校、地幼権儀を設立寄附、福生長興

町に図書館、米山文庫を寄附、生涯を通じて

際奉仕、社会奉仕の道を貫き通した。



公式訪問スケジュール

2002年11月27日(水)

1. 公式訪問 12:00~14:00

米山梅吉記念館

2. 記念講演会 14:30~16:00

東し総合研修センター

3. 歓迎晩餐会 17:00~19:00

みしまプラザホテル



米山梅吉記念館



東し総合研修センター



みしまプラザホテル

公式訪問特集

CONTENTS

創刊のこぼ (財)米山梅吉記念館 編集 内藤成雄	2
「米山梅吉記念館報」発行とRi会長公式訪問成功を祝って #2820地区 ガバナー 中野哲男	3
公式訪問スケジュール	5
米山梅吉記念館 公式訪問	6
記念講演 東し総合研修センター	12
歓迎晩餐会 みしまプラザホテル	18
随 想	23
(財)米山梅吉記念館 概要	31



東し総合研修センター
Ri 東し総合研修センター

米山梅吉記念館 公式訪問

JR三島駅お迎え～米山梅吉記念館

公式訪問歓迎式典

開会の辞

(財)米山梅吉記念館 常務理事 伊藤文平

こんにちは。ビチャイ・ラタクルさんようこそお出かけいただきました。「ポトムアップ」の一言で全日本のロータリーアの心を語るがしたRI会長がここにおられます。大変な激務の中を2日間この館ならびに地区をお訪ねいただきました。ありがとうございます。私共は会長のおっしゃるクラブの普通の会員をたくさん集めております。もちろん地区、記念館の幹部の方々、すべて一同に参集いたしましたけれども、特にラタクルさんは、一般のこの地域の会員にお話していただいた、と思うと同時に私共手作りで心がから歓迎申し上げますので、公式訪問ではありませんが、プライベートに考えていただき、リラククスしていただいてロータリーを楽しんでいただきたいと思っております。

今日は皆さんありがとうございます。

歓迎のことは

(財)米山梅吉記念館 理事長 内藤成雄

晴天に恵まれて、私共が敬愛するRIプレジデントB・ラタクル閣下を当記念館にお迎えする歴史的な日を迎えることができました。会長にはハードスケジュールで、世界を舞台に御活躍の時間を我々のためにとおとりくださいまして、誠に光栄に存じます。

また感激一人でございます。ようこそお出でくださいました。心から歓迎を申し上げます。



お互いに三島駅にお別



お互いの内閣理事長とご挨拶



中野市バナーと贈り物



富士山をバックにホームで
（左から）常務理事、中野市バナー、理事長、内藤成雄（右側写真）

御随行の板橋RI理事ご夫妻及び田中エレクト、そして島津米山奨学会理事長、米山梅吉先生のご家族、それから会長の所属いたしましたタイ国トンブリRCの皆様方、そしてわが地区、全国からお集まりいただきましたPGの皆様方、およびこの地区からお集まりいただきました皆様方、ようこそお越しくださいました。心から歓迎を申し上げます。

現職のRI会長のご訪問をいただくということは、もちろん当館にとりましてはじめてのことでございます。このことは、本日を契機にいたします。当館が国際的な注目の中でご認識をいただける、という考えも浮かびあがってくるわけでございます。この意義は当館にとりまして、限り無く大きいものと考えております。この画期的な行事は、長年タイ国トンブリRCと友好関係にあります。我が2620地区の伊豆長岡RCとの長い間の親善の輪の延長線上にあることをご披露申し上げます。伊豆長岡RCの皆様方にも深甚なお礼を申し上げます。以上で理事長としての歓迎のご挨拶といたします。

重ねてようこそお出でくださいました。ありがとうございます。

ごあいさつ

ビチャイ・ラタクルRI会長

板橋さんをはじめ皆様、私はここに立つことを非常にうれしく思っています。また、ここに立つことを謙虚にかまえております。といいますのは、私は普通のロータリーアンとしてここに立ち、皆さんにお会いしたい、と思っているからです。この素晴らしい日本のロータリーの場に立てることをうれしく思います。



ご挨拶を持つ（米山梅吉記念館）



前車に降ったご挨拶



お出迎しの皆さんと



日本館役員とご挨拶

これは、ここ1ヶ月ではなく1年を超える長い間に理事長をはじめ理事の方々がお話し合いをして、このような機会を持つことになった次第であります。とりわけこの場に立ち皆様にお会いできることをうれしく思っております。特にトンプリの皆様とここで再会できたことを大変光栄に思っております。こんな経緯ができるとは思っていませんでした。彼らは日本人のように見えます。

今年のテーマは「慈愛の種を蒔きましよう」でございます。ここで思い出してください。米山梅吉さんは、ずっと昔に慈愛の種を蒔かれたので、米山さんは非常に高邁な理想をもっていらして、はるか遠くを見つめていたのです。米山さんは特に教育ということを考えておられて、これは国の将来を担うものであります。

最初に米山奨学金をうけられたのはソニンチャイさんというタイの方で、1954年に初めて奨学金をうけて東京大学で勉強されました。米山さんは教育を通して相互理解ということを考えていたので

ここにロータリーの会長として最初に立ったことを非常にうれしく思います。お招きいただいたありがとうございます。

歓迎花束の贈呈



歓迎花束 市川小児科病棟



司会 小畑雄平 記念館管理部長



講師-日本六大学国際関係学部長 梅本勲博(左)



閉会の辞

(財)米山梅吉記念館 理事 乾 昇

私は記念館の理事で92～93年度2620地区のガバナーをやらせていただきました。ピチャイ・ワタクル会長には用務ご多端のところ記念館にご訪問いただきました。私は今年の8月にタイ国のラノーン県へ地球環境再生アフォーラムの団長として行き、植林をさせていただきました。その最終日にはバンコクのトンプリRCへ何うことができましたが、その折我々58人の歓迎パーティを聞いてくださいました。本当にトンプリのみなさんありがとうございます。また、この後ワタクルさんには東レの会場で講演をしていただくことになっております。みなさんも聞かせていただけるわけでございますので、Sow the Seeds of Loveをしっかり身につけてクラブに、戦場に、そして世界にその種を蒔き、それが実ることを誓いまして閉会のことばといたします。



閉会の辞 伊藤啓俊理事長



閉会のご挨拶 内藤理事長



閉会のご挨拶 乾理事長



米山梅吉の言葉を聴く聴衆

タイ国より来たトンプリRC、スリウォンRCの皆さんも一緒に……





会場にお邪魔する農園の子どもたち



長寿のつとめならぬ笑顔に溢れて



日本赤十字社米山梅吉記念館



赤十字社米山梅吉記念館開館式



「梅吉」の歴史を伝える展示



開館式に出席する梅吉の孫



梅吉の歴史を伝える展示



日本赤十字社米山梅吉記念館



日本赤十字社米山梅吉記念館



米山邸の遺構



米山邸の遺構



記念碑製作（伊原高樹氏・山口君）

地区歓迎委員長 ガバナー 中野哲男

日頃より心から敬愛申し上げますRI会長ピチャイ・ラタクル様、ようこそ第2620地区へお越しくださいました。全会員を代表して心よりご歓迎を申し上げます。ご出席のみならず、ようこそご参加くださいました。誠にありがとうございます。

地区始まって以来のビッグイベントでございます。RI会長ピチャイ・ラタクル様は先程来記念植樹、記念碑の除幕、米山梅吉翁募参を済ませられました。ここに記念講演をしてくださるのでございます。誠に光栄であり、感激の極みであります。どうか限られたひとときではございますが、大いに堪能していただきたいと思っております。

本日に至るまで、数々の御労苦をおかけいたしました内藤記念館理事長はじめ、関係各位のご努力に深甚なる敬意と感謝を申し上げます。誠にありがとうございます。どうぞ今日一日がみなさんにとりまして思い出深い意義あるひとときであること、また会長の播かれる慈愛の種が、我が地区にロータリーの心を大きく育てる記念の日になることをご祈念申し上げます。簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。



写真 本会地区歓迎委員長

◎ピチャイ・ラタクルRI会長 記念講演会



写真の二枚目 中野ガバナー



記念講演

ピチャイ・ラタクルRI会長

ガバナー、バスト・ガバナー、地区のロータリーの方々、板橋理事をはじめとした皆々様ようこそ。1961年、次期クラブ会長として東京会議に出席するために初来日して以来、日本には何度か参りましたが、三島は今回が初めてです。なぜ三島かと申しますと、米山梅吉という偉大なロータリーの記念財団の記念館があるからです。30分ほど前に募参を済ませましたが、その墓前に立ったとき、地域社会の向上のために残した米山翁の威徳をしみじみ感じさせられました。

私は最近、世界をあちこち回っておりまして、今度の旅行もすでに4~5ヶ月に及んでおります。この前バンコクに戻った折は、わずか3日の滞在に終わっております。私の留

守中新たに生まれた孫も含めて、全部で孫は6人ほどおりますが、会ったときにはその子は生後5ヶ月になっていました。それというのも、世界中を旅して一人でも多くのロータリーアンに会う機会を持つことが大切だと実感しているからです。大抵の方は会うという和政府や国家の中心的人物に限ら



れていますが、私の場合、一人ひとりのロータリーの皆さんにお会いする、すなわち会員の皆様と草の根からの交流をすることを楽しみにしております。よって地域に根付いた活動を実際に行っている皆様に会うことはうれしい限りです。

アジア地域は長いことRI本部の会長を輩出しておりません。日本人でRI会長職を務めたのは、過去に東ヶ崎潔さんと向笠広次さんの二人がおられます。とりわけ、東ヶ崎さんが語ってくれたことが印象深く、日本に来ると彼のことを思いだします。東ヶ崎さんはロータリーについていろいろ語ってくれまして、私にとっってはいわば兄のよ





うな存在です。アジアはこのところ会長を出していないこともありまして、会長のノミネーション委員会が私を推薦しましたときには、アジアの会員、特に日本の方々の期待が高まったことと思います。ですから、威厳と責任を持ってこの職に望み、貢献したいと念じております。

RIの運営にあたっては、私としては新しいプログラムをつくらうとは考えてはおりません。その理由は、新しい良いプログラムはもう既にいくつも実践されてきたからです。むしろこれまでに導入されたものより良くすること心がけたいと思います。今まで、新しい会長が出るたびに多くのコミッテーターをつくり、多くのガバナリーや地区及びクラブに多くの仕事を課してきました。数年前には22のタスク・フォースがありました。そのために、ガバナリーや地区やクラブの皆様がRIの仕事に翻弄されてしまひ、かえってそれぞれの仕事の実践が難しくなっているように思われます。ですから新たなものを課すのではなく、既にあるプログラムを着実に実行してゆくことを望みます。

ここで、二つのことを強調したいと思ひます。一つ目は、新会員の獲得と現会員の

維持であり、二つ目はポリオの撲滅を心がけたい、ということとです。新たな会員を得ることはいうまでもありませんが、それ以上に現状の会員を維持してゆかなければならないということとです。数年前、40万人のロータリーの会員がやめるということがありました。それゆえ、現在の会員を維持してゆくことが大切になるのです。新たにメンバーを増やすということに関しても、会員数だけにとらわれないこととなく、同時にその質についても考えていきたいと思ひます。私としては、質を考慮してこそ、ロータリーの将来の成長につながるものと考えております。

さらに、ここで私が強調したいのは、「基本に戻れ」を大切にしたいということとです。これを皆様に強く訴えたいのです。それが何を意味するかというと、百年前にポール・ハリスが創設したロータリーの基本的な理念に立ち返って考えようということなのです。新しいプログラムをどうこうすることより、その理念の原点に立ち返ってみることを大切にしたいと考えています。私の言う「基本に戻れ」というのは、百年前の状態に戻るといふことではなく、理念を継承してゆくことを忘れるなということと、挑戦することとか、変化や変更をみとめるなということでは決してありません。むしろ変化に目を向けてほしいのです。そしてそれを機に、百年前に導入された基本を考えてほしいのです。ポール・ハリスの基本哲学を大切にしようということなのです。

もう一つ申し上げたいのは、大半の方が忘れてしまっている理念、すなわちそれぞれの仕事を大切にするという第二モットーの「職業奉仕」の精神を思い出せようということとです。

「職業奉仕」の理念はロータリーにとつては大変重要です。ロータリーの存在は職業を通しての貢献、各自それぞれが職種を代表してクラブに加わっているわけですから、自分の第一の職業を通しての貢献、すなわち「職業奉仕」の理念を忘れないでほしいということとです。自分の職業を全うすることが大切で、「He profits most who serves best」というのが、ロータリーの精神です。よって、責任と高い倫理観を維持しながら、職業を通して貢献するのが大事であると考えるとされます。

この「職業奉仕」のモットーの復活を指して、私は板橋理事共々関わっているのです。板橋理事と私は二人のアジア人として、「職業奉仕」のモットーを復活するべく、理事会では他の17名のメンバーを説得しようとして日々努力しているのです。「職業奉仕」という、今は多くの方に忘れられたモットーの復活の重要性を説いてはいるのですが、我々のこの考えが他のメンバーにはなかなか理解してもらえないようです。従ってアジアの同胞として、板橋さんと共に協力して理事會説得にあたってはいる次第です。どうぞ皆さん、ここにRIの板橋理事を紹介させていただきます。私は板橋理事の仕事で大変高く評価しており、彼の活躍に心より

感謝しております。

さらに強調したいのは「ポリオの撲滅」です。1985年にこの撲滅キャンペーンは始まりました。その当時、126ヶ国に40万人の患者がおりました。この撲滅運動とは一人当たり8セントのワクチンを20億人の子供に提供するという計画で、すでに高額の資金を費やしてきました。この撲滅運動を2005年までに完成したいと考えています。アジアの国でこの運動に積極的に参加しているのが、日本、台湾、韓国ですが、もっと広げてゆかなければなりません。資金の提供者はアメリカを筆頭に日本、韓国、台湾となっています。あなたの方の地区ではこれまでに1,200万ドル以上を提供してくれました。資金は他にはビル・ゲイツ財団、世界銀行、国連などから出ています。2003年6月のブリズベーン会議までに何とか目標を達成したいと思ひます。私たちが目指すのは一枚の紙、すなわちポリオを撲滅したという証明書です。2005年までにWHOより獲得したいと思ひ関わっているのです。まだ、今年としては、8,000万ドル位のお金が必要ですが、これが最後のハードルとなっています。私が会長に就任して5~6ヶ月たちますが、まだ目標額の20%にしか届かない状況です。在任期間は残すところ6~7ヶ月しかありません。この目標が達成されない限り、世界の子供にワクチンを与えるという約束が守れないのです。私としては世界の子供にワクチンを与えることを目標に關っていききたいと思ひます。

今朝、糸山記念館で5~6歳（*実際は小学生）の20~30人ほどの子供に会いました。その中にポリオを患っている子はいませんでした。みんな幸せそうな笑顔が輝いていました。世界の子供がみんなこのようであ



謝辞

歓迎副委員長 内藤成雄

私たちは今、言い知れぬ感激でいっぱいです。それは尊敬するビチャイ・ラタクル会長のお姿お声を間近く接し得たという喜びと共に、私たちロータリアンが目指す奉仕という精神が、会長のいわれる慈愛、Loveということばの中に裏付けられているということを実感したからです。そしてこの素晴らしい感動を我々に与えてくださいます。また米山梅吉先生のお滞り、そしてこの地に記念館の存在することの大きな意味をあらためて再認識する思いでございます。ビチャイ・ラタクル会長におかれましては、ハードスケジュールの中大変お疲れのことと思いますが、それにもおおいとなく我が心の心に明るい灯火をともしてくださいませ。たことを感謝いたします。一回を代表して厚く御礼申し上げます。またご参加のロータリアンの皆様方ありがとうございます。



次の晩餐会場へご案内



私はこの後、大阪を経て、インドの四つの都市、アリー、チャンダガ、ボンベイをまわり、それからソウル、プサン、台湾、香港を経て4日ほどバンコクに滞在した後、料びシカゴに戻るといってハードスケジュールです。皆様にまたどこかでお会いできることを楽しみにしております。大阪会議の後、プリズペーンの会議でお会いできるとを期待しています。どうもご清聴ありがとうございました。



永遠をつづけた感動の会場から握手せよ

思います。どこに行こうと何をしようと思わず心にとどめていただきたいのは、「慈愛の心をもつ」ということ、相手に対し真心を持ち続けることを皆さんにお願ひしたいのです。

最後にこれまでのお話を要約しますと、第一になぜ新しいプログラムを作らないかということ、すでに我々は十分いいものを持っているからであり、すでに持っているよいプログラムを続けてゆくということと、

第二に自分で目標を設定して自分のペースで実行してゆくことが大切なのです。

第三に「職業奉仕」の理想を強調したい。それには高い倫理、すなわち職業倫理を持って当たっていただきたい。

因番目に現状の会員を維持するとともに、会員の質を考慮しながら新たな会員獲得に努めること。

五番目にギリオの模倣です。これらを考えていただきたい。そして基本となるのは「慈愛の種」であるということをお帰りになっていただきたいのです。「慈愛の種を播こう」ということを基本に置いていろいろな良いアイデアが生まれてくるでしょう。

ロータリアンの皆様ありがとうございます。そろそろ時間になりましたので、質問があれば喜んで答えたいと思っております。

ってほしいと切に願っております。皆さんが何を期待し、何をなさりたいかわかりませんが、この運動の方法は上から降りされるものではなく、草の根から積み上げられるもの、つまり皆さんが積み上げてゆくものでなければならぬというのが、私の考えです。子供たちの英気を、そして走る姿を見るまでこの運動を続けていかなければなりません。それができなければ、せっかくの運動が失敗に帰すということになってしまうのです。

ロータリーのテーマがどうして「慈愛の種を播こう」なのか。それは「人道的な奉仕」をしなければならないということと、どのような奉仕をしようとも、愛、すなわち慈愛の心や誠実さ、それに高潔な態度をもって望まなければ決して真の奉仕とはいえないのです。

私は北米、南米、ヨーロッパ、ロシアと様々な国を旅してまいりました。そこで多くのロータリアンに会う毎に、彼等に「慈愛の種」ということを説いてきました。怒りや顔と顔を合わせても絶対に解決は生まれません。この愛こそが大切なものと考えられます。

私のすぐ後の会長はナイジェリアの方、その次はアメリカのアラバマの方が会長になることに決まっていますが、とてもよい方々なので、よい仕事をなさってくれると

講師
日本大学国際関係学部
橋本敬博